

JICA 基金活用事業 案件概要

I. 事業の概要	
1. 事業名称	多文化共生プロジェクト～外国ルーツの人が地域に発信！ともに学ぶ育む街づくり～
2. 活動国・地域	日本・埼玉県さいたま市を拠点とした国内の移動可能な地域
3. 事業分野	<input type="checkbox"/> 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業 <input checked="" type="checkbox"/> 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業
4. 事業の目標	外国にルーツを持つ人たちが生き生きと活躍できる場を作り、日本人住民が多文化への興味と理解を深め、多様な背景を持つ人たちと同じ地域の一員として関わることで、誰もが安心して暮らせる共生社会を築く。
5. 事業の背景・経緯・対象地域の課題・人びとのニーズ	日本人、外国人が共に暮らすためには、双方向の学びや交流の促進が必要だと考える。以前委嘱を受けていた文化庁（現文科省）の事業では、運営委員会をはじめ、関係機関との連携や日本人へ向けた発信、それによる認知については一定の成果があったと言えるが、多文化共生社会の構築は短期的に完結するものではなく、まだ十分だとは言えない。これまで文化庁の助成事業に採択され、地域で築いてきた連携を途切れさせることなく、継続的な取り組みが不可欠である。外国人、日本人、誰もが孤立することなく社会の一員として共生することで、誰にとっても住みやすい地域となる。
6. 事業の意義・目的	日本社会の中では、「外国人に教える」という発想が一般的だが、「外国人から学ぶ」ことこそが、共生社会の実現には不可欠であり、双方にとって有意義な時間となる。外国人は同じ地域住民であるという視点で、対等な関係を作り、互いの文化や価値観を尊重しながら学びあうことで、多様性のある地域となること、そしてこれらがより広範囲に広がっていくことを目指す。 この取り組みをひとつのモデルケースとして他の地域でも応用可能な多文化共生の仕組みを構築し、広めていくためには、「地球っ子メソッド」として形に残す必要があると考える。これまでの経験により、多くの工夫や関係づくりのコツがあることが分かっているが、言語化・可視化できておらず、団体内の経験として蓄積されているだけである。活動を通して、活動の意義や運営のコツ、声掛けのタイミングや工夫、参加者の声などを記録・整理することで、将来への人材育成につなげ、地域発の多文化共生モデルを構築し、他機関と連携し、広めていく基盤を整える。
7. 主な対象者（受益者）	・外国人住民、外国にルーツを持つ人 ・日本人住民
8. 実施期間	（西暦）2026年4月～2027年3月
9. 活動内容	1. 発信の場「多様な文化を楽しむワークショップ」 多言語おはなし会、チャレンジスクール、胃文化理解、体験型文化紹介等 2. 人材育成の場 勉強会、講演会、関係機関との連携・協働 3. 「地球っ子メソッド」の体系化 実践や手法、経験を整理・記録。運営の工夫や参加者の声を残す。
9. 事業費	1,000,000円
II. 団体の概要	
1. 実施団体	地球っ子グループ
2. 主な活動内容	・教室活動：安心できる居場所で、体験から日本語や教科につながる学習の場 ・発信の場：日本語の能力に関わらず、地域と繋がり活躍できる場 ・人材育成の場：子どもの教育に関わる人のための学びの場の設置・運営